日本ビジネス実務学会
中国・四国ブロック会報 第34号

Bulletin of the Japan Society of Applied Business Studies,
Chugoku-Shikoku Bloc, No. 34

発行日:2020 年 9 月 30 日
編集責任者:堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)
事務局:〒770-8514 徳島市山城町西浜坊示 180
URL: http://jsabs.hs.plala.or.jp/

ブロックリーダーより　堀口誠信（徳島文理大学短期大学部）

今年の全国大会は東京オリンピック・パラリンピックで混雑するであろう東京を避け、わざわざ札幌大会として会場を確保したにも関わらず、皮肉なことに 3 月以降、北海道を中心にコロナウィルスが蔓延し、早々に遠隔学会になってしまいました。学会でも Zoom のアプリで研究発表に支障がないよう、何度もリハーサルが繰り返された訳ですが、考えてみると、私が初めてこの学会に所属した 15 年ほど前は、パワーポイントを使えるだけで「機械に強いね」とか言っている呑気な時代でした。今や、Zoom を数日でマスターして、学会や授業で使いこなせるようにしなければいけない時代です。

こういったアプリに関しては、我々教員よりも、学生の方がスマホに慣れていることもあり、扱いが詳しいです。しかし、「他人に伝わる話し方、内容」ということに関して言えば、機械の操作と違って、そう簡単には解決しない要素がひそんでいるようです。そのような中、今回も 15 回を数える学生プレゼンテーション大会では 5 組(うち 1 組はビデオでの紹介)の参加があり、聴講する先生方にとっても「気づき」をもたらしてくれるものになりました。研究会参加者数も増え、学生プレゼンもますます盛り上がり、全国大会でも学会奨励賞を狙える先生が揃ってきた中国四国ブロックのますますの発展を微力ながら応援したいと考えます。

ブロック研究会・当番校を代表して　松永満佐子（四国大学短期大学部）

第 37 回中国・四国ブロック研究会は、2020 年 8 月 29 日（土）に四国大学短期大学部を当番校として開催されました。当初は 2020 年 8 月 29 日（土)、30 日（日）の 2 日間に亘って開催されるはずのところ、新型コロナウィルス感染拡大の防止と安心・安全を配慮して、オンライン会議による特別な形の研究会を実施いたしました。規模を縮小するため予定していた招待講演と懇親会は残念ながら取り止めとし、研究会当日は、2 件の遠隔研究発表と 5 大学 5 組の遠隔学生プレゼン大会発表がございました。

今年は阿波踊りが中止になり、徳島は静かな夏を迎えました。このような移動自粛と３密回避の中で十分なおもてなしができない状況ではありましたが、今回のブロック研究会では、いろいろと初めての挑戦や体験をすることができ、新しい工夫や発見があったかと思います。そして、コロナ禍の困難を乗り越え、平穏な暮らしになることを待ち望んでいます。皆様のご参加・ご協力に厚く御礼申しあげますとともに、ますますのご健勝・ご活躍を祈念いたします。

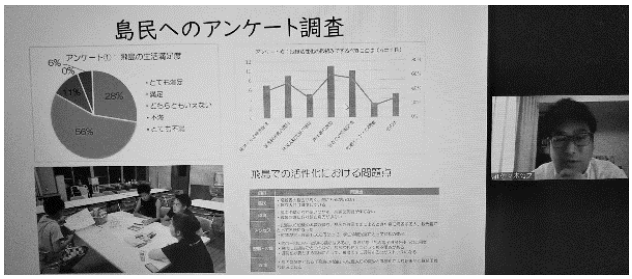
日本ビジネス実務学会
第 37 回　中国・四国ブロック研究会　プログラム

（2020 年 8 月 29 日　当番校：四国大学短期大学部）

【8 月 29 日（土）】	
13：20～	待　機　（ホスト・ゲスト接続タイム）
13：30～	開会の挨拶　ブロックリーダー　堀口誠信 当番校挨拶　松永満佐子 事務連絡
第 15 回学生プレゼンテーション大会　（発表：5 分）　司会（ホスト）：加渡いづみ	
13：40～	①「医療秘書実務実習を通して学んだこと」 山陽女子短期大学・専攻科　大藤珠美
13：50～	②「留学生活・フィールドワークを通して学んだこと」 中国学園大学・国際教養学科 3 年　北川梨央
14：00～	③「オンライン授業受講で気づいたこと」 安田女子大学・現代ビジネス学部・現代ビジネス学科 3 年 小田美織・石橋真帆・板倉由茉・遠西さくら・灰垣亜沙子・船田萌
14：10～	④「新型コロナ感染拡大による台湾での学生生活」 徳島文理大学短期大学部・言語コミュニケーション学科 2 年　吳詩霈
14：20～	⑤「コロナウィルスから得たもの」 広島女学院大学・人間生活学部・生活デザイン学科 2 年　谷口友恵
14：30～	休　憩（15 分）
研究発表　（発表 15 分・質疑応答 5 分）　司会（ホスト）：加渡いづみ	
14：45～	①「笠岡市飛島での地域活性化 PBL と教育効果」 中国学園大学・国際教養学部　佐々木公之
15：05～	②「「秘書技能検定を用いた職業観の資質・能力育成」 ～2 校での生徒の質問紙調査より比較・分析・考察～」 岡山県立新見高等学校　名和晋也
15：25～	閉会の挨拶

研究発表概要一覧　発表者氏名、所属、タイトル、研究領域（→で表示）、発表概要の順

1．佐々木公之（中国学園大学）
「笠岡市飛島での地域活性化 PBL と教育効果」 →【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究



1．概要
　本稿は、研究発表者が運営する中国学園大学国際教養学部のゼミナールの取り組みとして 2018 年度、2019 年度に行われた「笠岡市飛島での地域活性化 PBL」（以下、本プロジェクト）を通じて、過疎化・高齢化が進む「中山間地域の活性化」で主体的に取り組んだ学生たちが、どのような体験をし、何を学び得たかをあきらかにすることをねらいとしています。
　2 年間にわたる地域活性化のゼミ活動を振り返り、本プロジェクトに対する島民からの評価から、本プロジェクトの成果を検証するとともに、PBL に参加した学生たちを対象に実施した半構造化インタビューの結果とコメントをもとに、本プロジェクトの教育効果について考察します。

2．本プロジェクト実施の背景
　本プロジェクトのリーダー学生 A は、祖父母が住む笠岡市飛島（人口 38 名）の人口減少と高齢化を憂いており、機会があれば学生時代に同地で地域活性化について研究したいと考えていました。その旨を、笠岡市役所に伝えると担当者に共感いただき、岡山県の補助金を活用しながら、2 年計画でPBLを行う運びとなりました。
　笠岡市役所、飛島自治会との協議の末、本プロジェクトの主な活動として、「島民との交流」「敬老会などのイベントサポート」「島民の意識調査アンケート」など行うことになりました。

3．本プロジェクトの地域への波及効果と教育効果の検証
　①．笠岡市飛島の現状と本プロジェクトの効果検証を行うため、学生たちが島民に対してアンケート調査とインタビュー調査を行いました。
　②．6 泊 7 日で島民宅に民泊し体験した 4 名の学生を対象に半構造化インタビュー調査を通じて、本プロジェクトの所感と社会人基礎力として重要と感じたことについて検証を行いました。

4．結果と考察
　本プロジェクトに対して、島民だけでなく、飛島の自治会、笠岡市役所、岡山県庁からも高評価をいただくなど、学生たちの活動が島の地域活性化の一助になったと考えます。また、学生たちが自主的に、島の PR 動画制作や SNS で情報発信するなど、学生が得意とする分野を活かした取り組みを行い、一定の成果がありました。
　教育面においては、椿オイルの販売体験、敬老会企画など、学内では体験できない多くの実践的学びがありました。とくに、6 泊 7 日で島民宅に宿泊し、飛島の歴史や食糧調達は、学生たちも今までにない体験ができたと、大きな財産となったと考えます。
　また、学生たちが、この活動を通じて社会人基礎力の中でも「発信力」「傾聴力」「主体性」「課題発見力」「働きかけ力」の重要性に気付いたとコメントしており、本プロジェクトがキャリア教育面において有効であったと考察します。

2．名和晋也（岡山県立新見高等学校）
「『秘書技能検定を用いた職業観の資質・能力育成』
－2校での生徒質問紙調査より比較・分析・考察－」 →【1】ビジネス実務教育　3)教育方法の研究

1．概要
　2019年度津山商業高校で生徒に秘書技能検定（以下秘書検定）の問題を使用した後「ビジネスパーソンになるための資質・能力」を質問紙調査で行い，分析・考察しました。結果，生徒自らが「能力成長」するためには教員の「問題発見する工夫」が必要であり新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学び」実施するため支援の一方向を示しました。
　本研究は，2020 年度新見高校　総合ビジネス科で上記問題を使用して実証実験授業を行い，質問紙調査を実施しました。そして岡山県北の商業科に在籍する高校生が，将来のビジネスパーソンになるためには何が必要であるか，2 校を比較・分析し考察を行い，共通点を探り，高校生に必要な職業観の資質・能力を考察しました。

2．研究の目的と方法
　今までの高等学校商業教育が，将来のビジネスパーソンとしての資質・能力を上手く育成できない問題点を解消するために2校をモデルとして“秘書検定の問題を使用し，ビジネスパーソンに対する資質・能力育成するための学び”を研究の目的としました。目的を達成するために2点の仮説を設定しました。
①実務の様々な問題場面に対応できるような授業を行い（秘書検定の問題を生徒に提供し考える事が有効である），生徒が要求する事で，資質・能力を育成することができます。
②問題場面で多様な考えを練り合い，最適解を議論する事により資質・能力を育成することができます。

3．質問紙調査結果の比較・分析
　名和・藤村が作成した質問紙調査を使用し，2019 年度津山商業高校 30 名，2020 年度新見高校 27 名を対象としました。各分析では
①ヒストグラム分析では，新見高校の生徒は津山商業高校の生徒に比べ，肯定的回答が少なくビジネスパーソンの能力を発揮できていない生徒が多いです。
②相関関係では、両校の「能力成長」と他の関係を分析すると、類似点が多い相関のグラフになります。この 2 点が顕著に表れました。

4．考察
　(1)ヒストグラム分析より
新見高校の生徒は
①津山商業高校の生徒に比べ「問題理解」している生徒が少なく，言語能力の基礎的理解が出来ていません。読解力を向上する支援が必要であり，支えるのは「問題発見する工夫」でありますが，現状では教員側に問題があります。
②5 件法で中間の「どちらともいえない」が比較的多いのは，学習意欲はあるが定着していない，または学びが気になるが出来ないためであります。
(2)相関関係図より
①教員が毎回，状況に応じた「問題発見の工夫」を行うと，生徒が「最適解の探究」し「問題発見能力」が向上し，能力成長します。
②「協働思考」や，生徒が「話し合う場」は能力成長効果が高いです。
③コミュニケーション能力を高めれば能力成長します。

　現在 2 校の比較で調査数も少ないため，さらなる調査を重ねり信頼性を増していきたいです。

学生プレゼンテーション大会　発表内容一覧

1. 山陽女子短期大学・専攻科　大藤珠美
「医療秘書実務実習を通して学んだこと」

私は、昨年夏季休暇中に病院医療秘書実務実習に参画しました。実習先は、地域医療を担っている 181 床の病院でした。実習では医療秘書が所属する医事課以外に、事務部、看護部、診療部などの主な事務業務を経験し、事務部門や診療情報管理部門が十分に機能していれば、医療機関の外来診療・入院診療が円滑に行われることを体験することができました。特に「地域連携室」は、患者情報を地域の医療機関と共有し、地域医療の推進に貢献しており、そこで学んだことを中心に発表いたします。

2. 中国学園大学・国際教養学科 3 年　北川梨央
「留学生活・フィールドワークを通して学んだこと」

私は、2 年時に 3 ヶ月間のセメスター留学をオーストラリアで行いました。フィールドワークのテーマは『日本とオーストラリアのペット市場の比較』です。フィールドワークは事前に作成したアンケートを使用し、日本では大学内、オーストラリアでは現地の方に街頭調査を行いました。そのデータを比較し双方の傾向を読み取ることが出来ました。また、留学生活の中で感情表現や発言の大切さを学びました。この様にフィールドワークの結果と留学生活を通して学んだ事を発表したいと思います。

3. 安田女子大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科 3 年
小田美織・石橋真帆・板倉由茉・遠西さくら・灰垣亜沙子・船田萌
「オンライン授業受講で気づいたこと」

本年度、新型コロナの影響を受けて、私たちは 4 月から 5 月末までオンライン授業を受講しました。
初めて受けたオンライン授業、そして、その後再開された対面授業の両方の授業形態を通して、オンライン授業の良かったこと・改善した方が良いことなど、学生からの視点で気づいたことがありました。今回は、私たちが受けたオンライン授業の紹介、オンライン授業の長所と短所、これからのオンライン授業の改善点（提案）について発表いたします。

4. 徳島文理大学短期大学部・言語コミュニケーション学科 2 年　吳詩霈（Wu Shi-Pei: ゴ シーペイ）
「新型コロナ感染拡大による台湾での学生生活」

昨年 9 月に台湾から来日し、徳島文理大に入学後、以前から学習していた日本語にさらに磨きをかけ、観光関連の科目にも力を入れ、クラスメートとの交友関係も広がりました。春休みに台湾に帰省した際、今年 3 月からの新型コロナ感染拡大により、日本に戻れず、台湾で遠隔授業を受けることにしました。この段階でのコロナ感染対策は台湾の方が進んでいましたが、実際の学生生活から見えてきたことを発表したいと思います。

5. 広島女学院大学・人間生活学部・生活デザイン学科 2 年　谷口友恵
「コロナウイルスから得たもの」

新型コロナウイルスは私たちの日常を一変させました。前期、ほとんどの大学生と同様に、授業の多くをオンラインにより自宅で受けることとなりました。当初は「通学の手間が省ける」と気楽に考えていた自宅での履修でしたが、実際には私にとってかなり大変なものだったのです。しかし、その経験が私に変化をもたらしました。今回は、前期の体験を通して、得た学びと気づきについて発表いたします。

総会概要

1 号議案:　第 39 回全国大会・理事会報告
1) 第 39 回全国大会(札幌・遠隔大会)
　担当:北海道ブロック
　開催日:2020 年 6 月 13 日(土)
　会場:北海商科大学・札幌国際大学
2) 全国大会に先立つ6月初旬より米本倉基会長主導で、Zoom 練習会を数回、開催。会員たちの Zoom ソフトの練習となり、また、ホスト・座長・発表者の段取りが綿密に決められることとなりました。

2 号議案:　2019 年度事業報告・収支決算
1) 2019 年度ブロック活動報告
　　第 36 回ブロック研究会の開催
　　開催日: 2019 年 8 月 24 日(土)、25 日(日)
　　会場: 広島女学院大学
　　参加者: 1 日目 10 人、2 日目 10 人　　合計 20 人
2) ブロック研究会と総会の開催
　　開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
3) ブロック研究助成の募集
4) 第 14 回学生プレゼンテーション大会の実施
　　参加者: 6 グループ(8 名)
　　開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
5) 運営委員会の開催:今回、全てメール審議となりました。運営委員 6 人に加え、アドバイザーとして佃昌道先生、桐木陽子先生の 2 名からも意見を伺いました。
　　2020 年に入ってからのメール審議は以下の通り:
　　第 1 回・2020 年 6 月 2 日(火):ブロック研究会案内第 1 報・第 2 報のスケジュール調整
　　第 2 回・6 月 10 日(水):Zoom 研究会の開催に際しての調整
　　第 3 回・7 月 25 日(火)・2021 年度のブロック研究会開催地について
　　第 4 回・8 月 14 日(金):プログラムの調整
6) 2019 年度・収支決算書
　　研究会に先立ち、2020 年 8 月 26 日(水)に出席予定者にメール審議の結果、承認されました。

3 号議案:　2020 年度事業計画・予算
　1) 2020 年度ブロック活動計画
　　第 37 回ブロック研究会の開催
　　開催日: 2020 年 8 月 29 日(土)
　　会場:四国大学短期大学部(Zoom 遠隔研究会)
　2) ブロック研究会と総会の開催
　　開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
　3) ブロック会報・第 34 号の発行。ウェブ上で会員に知らせることとなっています。
　4) ブロック研究助成の募集を通知
　　共同研究者 3 名以上、10 月が申し込み締め切りとなります。
　5) 第 15 回学生プレゼンテーション大会の実施
　　開催日・会場は、ブロック研究会と同じ
　6) 運営員会開催予定
　　第 1 回　2020 年 8 月 29 日(土)

4 号議案:　ブロック運営委員について(2020 年度メンバーは去年度と同様で、次の通り)
リーダー:堀口誠信(徳島文理大学短期大学部)
サブリーダー:関由佳利(高松短期大学)
運営委員:吉田順子(広島女学院大学)
運営委員:加渡いづみ(四国大学短期大学部)
運営委員:佐々木公之(中国学園大学)
運営委員:佐藤麻衣(高松短期大学)

5 号議案:　学生プレゼンテーション参加学生への交通費補助について
発表 1 件につき 1 名分の交通費を補助することが認められましたが、今回、遠隔プレゼン大会のため、費用は使いません。

6 号議案:　次回ブロック研究会の開催校・日程について
山陽女子短期大学での開催案が示され、これが了承されました。
日程については 2021 年 8 月 28 日(土)が第一候補ですが、未定です。
ゲストスピーカーについても今後決定する予定です。
今回、次期開催校の所属である梅本礼子先生を、ブロック研究会に特別聴講という形で招待しました。梅本先生は 8 月時点でまだ本学会に未所属ですが、すでに入会手続きを進めており、ブロック研究会の当日参加費を支払い、正式参加という形で参加人数にカウントすることにしました。

7 号議案:　次回全国大会の開催校・日程について
日時：2021 年 6 月 12 日（土)、13 日（日）
会場：北九州市立大学（北方キャンパス）

その他(連絡事項)
1) 今回 15 回目となる学生プレゼンについては、遠隔のため、質疑応答の時間を原則、取っていません。また、学生間の意見交換会や交流の場を設けるなどの、前回総会での意見を採択しておりますが、今回、遠隔のため、それも実施には至っておりません。
2)「テレワーク時代の新たなビジネス実務と教育の在り方検討プロジェクト」について：　主に来年度のテレワーク実務教育のテキストの出版を目指して活動することを条件とし、リーダー・研究推進委員長　見舘好隆先生(北九州市立大学)、共同研究者・保科学世先生(アクセンチュア株式会社)を中心に、メンバー数名を学会員より公募、総務・企画委員会の審査を経て選抜しています。詳細は本学会のホームページに逐次、報告しております。